

# 建築研究所ニュース



平成 27 年 10 月 2 日

10 月 6 日から建築研究所において 11 ヶ国 21 名の研修生  
を迎え、約 1 年間の国際地震工学研修を開始します。

国立研究開発法人建築研究所では、開発途上国から若い研究者や技術者を招き、地震学・地震工学・津波防災に関する 1 年間の「国際地震工学研修」を実施しています。研修は、国際協力機構（以下「JICA」という。）及び政策研究大学院大学等と協力して行っています。

1 年間の研修の開始にあたり、平成 27 年 10 月 6 日（火）16:00～16:30 に「第 56 回国際地震工学研修開講式」を JICA 筑波国際センターにおいて開催します。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による甚大な被害をはじめ世界各地で頻発する地震・津波災害に鑑み、本研修の重要性は益々増大しています。特にアジアを中心とする地震・津波の被害国では、予防、復興を含む地震・津波防災対策を早急に構築していくことが必要です。

研修生は、11 月に東日本大震災の被災地を訪れ、被害の状況や復興について学びます。また、来年 4 月には復興がほぼ完了した阪神・淡路大震災の地を訪問し、その教訓を学ぶ予定です。さらに研修の最後には、各国の抱える個別の課題に対応するための調査研究もまとめます。

1 年間の国際地震工学研修を修了して来年 9 月に帰国する予定の研修生は、母国で地震防災・津波防災対策等の専門家として、災害被害の軽減のため活躍することが期待されています。

今回の 11 ヶ国 21 名を加えると、1 年間の国際地震工学研修は、世界 81 ヶ国から 1,142 名の研修生を受け入れることとなり、また、国際地震工学センターとしては、短期コースに参加した研修生を含めて、100 ヶ国から 1,724 名の研修生を受け入れることとなります。

<参考1：開講式の日程>

第56回国際地震工学研修 開講式

日時：平成27年10月6日（火）16:00～16:30

場所：JICA筑波国際センター

（つくば市高野台3-6 TEL 029-838-1115）

<参考2：研修生の出身国名（11ヶ国=21名）>

アルジェリア(2)、バングラデシュ(3)、エクアドル、エジプト(2)  
エルサルバドル、インド(2)、キルギス、ミャンマー、ニカラグア(4)、  
パプアニューギニア(2)、フィリピン(2)（ABC順）

**（内容及び開講式取材の問合せ先）**

国立研究開発法人建築研究所  
所 属 国際地震工学センター  
管理室長  
氏 名 山下 崇  
電 話 029-879-0678(直通)  
e-mail t-yama@kenken.go.jp

☆ ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、上記問い合わせ先へお知らせ下さい。